



筑波大学  
University of Tsukuba

# Tsukuba Communications

vol.9

- 2- 座談会「筑波大学の未来を語る ～IMAGINE THE FUTURE.～」  
山田 信博学長・清水 一彦副学長・鈴木 久敏副学長・宇川 彰副学長
- 8- 特集 「附属病院 再開発計画」
- 10- 学内組織紹介 遺伝子実験センター
- 12- 附属学校紹介 附属高等学校
- 14- TSUKUBA SPORTS 女子バスケットボール部
- 16- TSUKUBA ART & CULTURE 焼き物をつくる会
- 18- TOPICS イベント／交流／受賞
- 24- 羽ばたくOB&OG 秋山 浩保氏  
柏市長
- 26- リレーエッセイ
- 28- 茗溪会Letter
- 29- 紫峰会Letter
- 30- 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 31- イベントカレンダー



## 座談会

# 筑波大学の未来を語る

～IMAGINE THE FUTURE.～

<出席者>

山田信博 学長・清水一彦 副学長(教育担当)

鈴木久敏 副学長(総務・人事担当)・宇川彰 副学長(企画評価・情報担当)

筑波大学は、1973年に開学して以来、「教育と研究の新しいしくみ」「新しい大学自治」「開かれた大学」を特色として、教育研究と大学運営の全般にわたって先駆的な取り組みを実践し、優れた成果を創出するとともに、わが国の大学改革の先導的な役割を果たしてきました。開学から40年を迎えようとする現在、国立大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、今後、本学が世界的な卓越性を有する大学としてさらなる発展を遂げていくためには、これまでの理念と実績を踏まえつつ、未来に向けた筑波大学の在り方を追求していかなければなりません。このため、現在「教育研究体制の在り方検討委員会」において検討が進められています。今回は、学長・副学長座談会を開き、「筑波大学の未来」について、それぞれの立場からの考えをお聞きしました。

### ◆いま目指すべき大学像

**鈴木** 本日はお忙しい中、座談会にお集まりいただきありがとうございます。皆さんに忌憚のないご意見をお話しいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

**山田学長** はじめに、現在の大学を取り巻く環境は大変厳しい状況にあることを皆さんに知っていただきたいと思っています。本学は法人化の2期目に入りました。これまで「自律的運営」に懸命な努力をしてきましたし、内部統制についても、その基盤づくりをしてきました。現在、大学本部や執行部だけではなく、各部局の自律的機能や各部局における評価、内部統制が、徐々に波及する方向に

向かっていると思っています。日本経済の低迷や国の財政状況の悪化を背景に予算や人件費が抑制される中で、大学としては競争的資金を獲得しなければならず、本業である教育研究以外の業務が増え、そのために生



じる疲弊感は、教員・職員全体が感じているところです。

こうした厳しい情勢と、現在の大学を取り巻く環境の中で、大切なのは、「国際化の視点」と「学生の視点」の両方をにらみながら大学運営を進めていくこと



山田 信博 学長

です。グローバル化や情報化が進み、国際的な人材獲得競争が非常に厳しくなっていますし、人材の流動性も進んでいます。本学としても、国際的に通用する人材を育てていくことが重要課題であり、特に博士課程の人材をしっかりと育てていくことが大事だと考えています。そのためにも、学位の質を保証していくことと、それに適した体制づくりを、もう一度しっかりと見つめ直す必要があると思っています。私は、学位の国際的通用性を確保するシステムを確立すること、それが国際社会の中で、本学における人材のキャリア支援になっていくと、強く感じています。そして、「国際化の視点」と「学生の視点」とともに大事なことが、今日のテーマである「未来への視点」です。現在の日本社会は、10年先や20年先の日本がどうなるのか、とても見えにくい時代です。しかし、その中で想像力を十分に発揮しながら新しいものを創り出していく努力を、常に準備していく必要があるのです。

**鈴木** 本学が目指すべき大学像についてですが、企画担当の宇川副学長は、大学の未来を企画する立場であ



り、第2期中期目標を取りまとめられました。同時に評価担当でもありますので、第1期法人評価や認証評価など、外部から本学がどのように見られているかを分析されていますが、いかがでしょうか。

**宇川** 今後、本学が特に力を入れるべきは、大学院教育の充実だと思います。現在は、社会のあらゆる最前線において、最高度の知識・経験を持った人材が活躍をしなければ、社会が発展していかないという時代です。従来期の大学院教育は研究者養成といった側面が強かったわけですが、現在さらに将来の視点からは、大学院教育を受けて、社会に出てより幅広く活躍できる人材をいかに育成するかが問われていると思います。本学は「新構想大学」として創立された経緯もあり、学部教育については、教育に学位プログラムの視点を入れるという観点がすでに開学当初からあり、長年の実績と成果があります。ところが、大学院教育に関しては研究者養成という側面が強く、社会の最前線において活躍する人材という視点の徹底が十分になされてこなかったのではないかと感じています。社会から求められる人材の育成に應えるため、本学の大学院はどんな人材を育てるのかということの再確認と、さらにそれに基づいた制度を再設計することが重要だと思います。-

**鈴木** 清水副学長は教育担当ですが、同時に教育学の研究者でもあります。日本の教育制度や海外の大学との比較、中央教育審議会（以下、中教審）など政府機関が進めようとしている大学の在り方などを見越した形で、本学はどのような大学になるべきとお考えですか。

**清水** 大学の原点は、教える者と学ぶ者がいるということから出発しており、われわれはその原点を大事にしなければいけません。同時に現在の大学は、「象牙の塔」として社会から隔離された存在ではなく、社会システムの



一つとして位置づけられ、いわゆる「見える化」を社会に対して積極的に発信しなければいけない時代になってきています。「見える化」が求められることによって、そこで学ぶ学生の視点や大学が教える教育プログラムを「見える化」しなければいけなくなったのです。そのために大事なのが教育プログラムとしての学位で、その中身を「見える化」しなければなりません。さらに、国際化、グローバル化も重要な視点ですから、国際的には日本の学位の質を保証していくことも大きな課題で



す。特に大学院学位、博士の学位です。国内の大学政策は、これまでは学部中心で、大学院は置き去りにされてきました。ここが米国と違うところです。米国は英国流の教養教育とドイツ流の大学院制度の両方をうまく組み合わせ、米国型の大学システムをつくってきたのですが、日本は戦後、そういう時間的な余裕がなかったこともあり、学部の構築が中心になって大学院の整備は後回しになっていました。大学院学位の「見える化」や質保証のための制度づくりが必要だと考えています。

**鈴木** 「学位プログラム」について、詳しくご説明いただけますか。

**清水** 学位プログラムは、中教審の検討ワーキンググループでは、『学生による学修成果を重視する観点から、学生が学位を取得するにあたり、大学等において当該学位のレベルと学問分野に応じて達成すべ



清水一彦 副学長

き能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラム』だと定義しています。これまでは、学生や社会からは大学の組織しか見えなかったのですが、その大学が行っている教育目的や教育内容、教育方法、さらには大学が生み出す学修や教育の成果などを見えやすくするという学生本位の視点への移行が、「学位プログラム」を導入する意義となっています。専攻や学類という組織から教育プロ

グラムを組み立てていたのを、今度は学位という観点から、それぞれの学位の人材養成の目的、カリキュラム、アドミッションの“三つのポリシー”を、つくり直すということになります。

これまでも、学位プログラムは実現しています。しかし、それによって異なる組織に同じ学位が存在するという現象も見られます。学位の観点からすると非常におかしなことから、学位プログラムを見やすくするために、再検討・再整理する必要があります。現在、本学では学士力について検討ワーキンググループをつくって、三つのポリシーから学士を含むすべての学位についての見直し作業を進めているところです。リーディング大学院も一つの契機となって、大学院における学位の質保証の強化に向けた作業を進めていきたいと考えています。

**宇川** 本年度、企画・評価担当の立場から認証評価に対する自己評価書の取りまとめなどを通じて感じたことは、学群・学類については長い歴史があって、確立したものができており実施されている一方、大学院については、不十分な面があることは否めませんでした。今回のことを契機に、“三つのポリシー”の見直しを図ると同時に、それを実現するための体制まで踏み込んで検討することが、本学の将来にとっては非常に重要でしょう。そういう意味で、リーディング大学院も良いきっかけになるのではないかと期待しています。

**山田** 今、社会で問題視されているポスドクのキャリアをどうするかということ、本学は先駆的にしっかりと解決する道筋を付けていかねばならないと思っています。それと、さまざまな国際交流など国際的通用性を考えたとき、国際的な単位の互換性など、「学生の視点」

から学位プログラムを積極的に運用できる体制にしていかなければいけないと思っています。

**鈴木** 私は、総務・人事担当という立場で、直接的に教育研究をサポートするというよりも、教育研究がきちんと動く仕組みやインフラづくりなどが役割ですが、その立場で見ていると、教員個人が好き勝手な研究だけをしていけばいいという時代は、もはや過ぎ去ったと思っています。自分の内部から発する研究の関心に基づいて研究を進めることは、もちろん大学における研究の基本ですが、ただ単に自分の欲望のまま研究をするのではなく、その研究が社会にどう役立っていくのか、プロセスまで見据えて研究を行う視点がまず必要でしょう。学生を育てることにおいても、自分の研究の跡を継いでくれる学生を育てるのではなく、自分を乗り越えていく研究者、あるいは自分ができなかった部分を新たに開拓していつくれる人材を育てていくのが、本来、大学の教員の役割なのではないかと思っています。本学創設準備調査会の文書『筑波新大学のあり方について一報告』には、『いったん定められた研究ないし教育の分野を固定的に永続するものと理解すべきではなく、学術の発展、社会的要請等に従って常に流動的に変化する弾力性を持つものとすべき』と書かれています。筑波大学は現状に甘んじてはいけなく、常に新しいものをつくっていくのだ、常に改革の先端を走るのだ、ということが本学の持っているDNAだと私は思っています。この創設以来の伝統は、固有の学問を深掘りするだけではなく、それらの学問の間を横につないで新しい知をつくり出す、いわゆる「横断型の知」という言い方をしますが、さまざまな分野の知を統合するような知をつくり出す仕組みです。この二つの伝統が筑波大学の教育の基本にあり、これを大切にしていきたいと思っています。そういう大学を目指すためにはどういう仕組みが良いのかという視点から、「教育研究体制の在り方検討委員会」で議論を深めていきたいと考えています。



鈴木 久敏 副学長

**山田** 本学だけではなく、大学全般の課題なのですが、入学者を大学で育てることについて、私たちはもっ

と真剣に考えなければいけないと思うのです。今までの大学は、偏差値競争の中で育ってきた子どもたちを入学試験という入口で振り分け、その後、大学がどれだけ人材育成に関与し、成果を上げたのかが、社会には見えにくかったと思います。無限の可能性のある若者たちを育てあげ、これだけの人材にして社会に出していくのだと、研究の最先端に行く研究者を育てるということもあり、また、企業人としても国際的に通用するような人材を育てるということでもあります。社会にとってどれだけ役に立つ人材をわれわれは育てたかということでもあります。そういうことを示すことができる大学でありたいと思っています。今回の中期目標の中にも記してありますが、環境や格差の問題など、世界にはいろいろな解決困難な課題があるわけです。本学で学び育った人材が、その解決のために、国内外で活躍する、そんな人材を育成できる大学として発展していくと、われわれ大学人としての夢が実現するのではないかと考えています。



## ◆筑波大学にある組織的課題

**鈴木** 次に、現状でどんな問題や課題があるのかの議論ですが、企画・評価担当の宇川副学長から、本学が抱えるさまざまな課題についてお考えを教えてくださいませんか。

**宇川** 平成12年度から13年度にかけての大研究科再編、さらに平成16年度の法人化に際しての組織改革後、第1期中期計画6年を経て、いくつかのきしみが出てきていると思っています。一つは専攻の固定化の傾向です。専攻は教員組織であり教育組織でもありますが、教育面からすると柔軟な専攻の改編が必要な場合があるにもかかわらず、教員が所属しているために、それが行えない状況が起こっています。二つ目は学際的な専攻です。複数の学問領域から教員が来ていますが、その専攻の運営にあたっては、教員のグループが小さ過ぎる、あるいはその専攻で学際的な人事が難しい面があって、運営が困難だという面も見られます。大学院の研究科・専攻の体制が教育と教員を強く結び付け過ぎたため、結果的に柔軟な運営が十分に行えない側面が出てきているのだと思います。さらに、研究科にすべてが集中したことによって、学群教育についても問題が生じて

います。これは法人化の改組以前から言われていたことですが、学系や専攻が中心となって人事を行うために、学群教育に十分な手当てができない、学際的な学群教育を行おうとした場合に教員の手当てが十分にできないといった問題が、現段階でも残っているということになります。今後、本学が将来に向けていく上で、教育研究の体制をどうするかが焦点だと考えています。

**清水** 一つの大学に、専攻中心に運営しているところと、学系が運営しているところ、あるいは中間的に両方使いながら運営しているところが混在している現状は、組織体としてはやはりおかしいと思います。授業についても、通年の科目が中心になっている組織と学期完結型が中心になっている組織がある。専門分野の特性や多様性は認めつつも、一つの大学の組織体として、ある程度の統一的な物差しが必要ではないでしょうか。これらは、できるだけ速やかに解決しなければいけない課題だと思います。

**鈴木** 大学教員の人事という点で指摘しておかねばならないのは、本学は草創期以来、講座制を廃止した関係もあり、教員が個々に研究を行うという文化が根強く、37年間続いてきたと思っています。そのために教員がまとまって組織的に研究をする力が比較的弱い。大型研究などを進める推進力がなかなか育たない。それらを改善する仕組みとして、研究戦略イニシアティブのような新しい試みがあるのですが、それでもまだ不十分だと思っています。大型の研究やグループ研究などが不断に行われるような体制をつくり出す必要がある。その意味で教育と研究を教員から見て等距離に置かなければいけないのではないかと考えています。

**山田** 法人化で組織が複雑化し、会議が多くなったりするなど、いろいろなことが重層化し、われわれの業務自体も増えています。教職員にゆとりをつくることも一緒に考えていかなければいけませんし、長い目で見て、教職員の皆さんがメリットとして感じるような体制にしていく必要があると思っています。

**鈴木** 今回の中間報告案に示される予定の、教育組織と教員組織の分離という考え方が、一つの問題解決の方向なのかなと思っています。このような形にすることによって、学生の視点に立ち、教育組織がどういう人材を育てたいのか、そのためにはどんなカリキュラムが必要なのか、そういう方向からあるべき教育の仕組みが出来上がることが望ましいと思います。その観点からど

う教員を補強するの  
か。研究について  
も、社会に対してど  
ういうアクティビティ  
で成果を発信するの  
か、そちらの視点から  
どういう教員が必要  
なのかと、発想の順番  
が変わることが、今回  
の教育組織と教員組  
織を分離することの  
大きなメリットだと私  
は考えています。

**清水** 大学制度論から言いますと、大学制度は大きく教員、学生、それらを結ぶカリキュラム、この三つの要素から成り立っています。学生の視点から言うと、大学というのは学士課程と修士課程、博士課程といった「課程」しかないはずで、課程があるだけで、その中に教員が学生に学んでほしいカリキュラム、あるいは学生が学びたいカリキュラムがあるわけです。そういう意味で、今回の改善案によって教員と学生とカリキュラムが制度としてかなり見えやすくなるのは素晴らしいことだと思います。

**宇川** 別の見方ですが、大学で教育と研究に責任を持つのは教員です。その教員が組織としてどういう集団をかたちづくってこの任務に携わるのかは、非常に大事な点だと思います。学問的にある程度のまとまりで教員集団をつくって学者集団としての活力を保ち、その教員集団が教育にも研究にも責任を持つ体制を構築するというのが非常に大事なポイントです。こういった考え方は学系制度でも既にあっただけですが、学系制度の反省点の一つは、学系という教員集団の固まりが少し小さ過ぎたことではないか。小さい集団ですと、柔軟な対応もできませんし、固定化の方向がさまざまな理由で



宇川 彰 副学長

できてしまった。ですから、教員集団を教員組織としてまとめていく場合に、まとまりの大きさを従来よりもう少し大きくし、学問の大きなくくりでつくっていくのも、今回の案の非常に大事なところだと思います。



## ◆筑波大学が想像する未来

**鈴木** こうした課題を踏まえて、「未来の筑波大学」についてご意見をいただけますでしょうか。

**清水** 40年以上も前、東京教育大学の移転問題と国家プロジェクトとしての研究学園都市構想がドッキングする形で、筑波大学構想が生まれました。そういう面では、本学は国家プロジェクトの一環として歩んできたわけです。その中で本学は、日本の先導的な大学制度を志向してきました。それをわれわれがさらに見える形で社会や国民に示すことが、現在の学位プログラム構想であり、そこには別に新たな学位プログラムをつくるリーディング大学院の構想とともに、他方では既存の学問的ディシプリンを強化する、再生するという意味があるのです。本学は新しい大学づくりを研究学園都市の中心地から、学問的ディシプリンの再生を図りながら、世界に発信しているというのを見せたいですね。それこそが、未来の筑波大学像につながるものと考えています。

**宇川** 私は、大学は知の拠点として、社会にいつまでも重要であり続けると思うのです。知の拠点とは、あらゆる意味で国境がないことが特徴ではないか。学問には、人種的にも、地理学的にも国境はないし、学問分野のあいだでも本来は境界はないのではないかと。私は、筑波大学が、すべての国の人たちが行き来して、すべての分野の研究をし、社会の必要とする、社会を発展させるための知を生み出していく拠点になることを、期待しています。このことは、もちろん建学以来言われてきたことで、部分的には実現された面もあります。本学は学際的な研究をもっとやっていけるはずで、さらに国際性の観点からは、筑波研究学園都市という地理的な条件にも恵まれています。今後、本学がアジアの中、世界の中で、知の拠点として発展していくことを期待しています。本学はその可能性を十分に持っているのですから。

**鈴木** 本学の学生、教員、そしてそれを支えている職員たち、筑波大学の構成員すべてがワクワク感を持ちながら生き生きとしている、そういう大学になってほしいと願っています。学生についていえば、ここで数年間を過ごしたことで、将来自分が企業や社会で活動する際に、「今の自分は筑波大学で育ったのだ」という意

識を持ってくれた時こそ、私たち教職員は最高の喜びを得られるのだと思っています。学生たちがそういう思いに達してくれる大学でありたいし、そのために適切な教育と研究を行いたい。同時に私たち教職員も、筑波大学にいたことで、社会に貢献できたという満足感が得られるような大学にしたいと思っています。

**山田** 私自身は昔から、人間の可能性というのは、すごいものがあると思っています。教育の中で大学は、幼稚園、小・中学校、高校の次にあって、人間の可能性や能力を開花させていく最後の、ある意味では一番大事な教育機関だと思うのです。ところが、最近の若者たちの留学離れだとか、内向き志向などが言われているのには、日本全体として、子どもたちの能力を存分に開花させることが窮屈になっているのではないかという気がしています。本学は、若者たちや社会、国民のそれぞれの視点を柔軟に理解しながら、真に自律的な組織として確立していき、真に開かれた大学として、魅力ある大学に発展していく必要があるでしょう。誰もが生涯のキャリアを形成していく中で、学校教育制度の最終段階にある大学が、より存分に能力を発揮できる知の拠点になることで、児童や生徒、学生も環境も変わっていくと思います。本学が、日本の教育全体として、また、国内の子どもたちが将来つくり上げていくイノベーションを先導する拠点として、素晴らしい旗を掲げていくことを私は期待しています。

**鈴木** 貴重なご提言・ご意見をお聞かせいただきました。素晴らしい筑波大学の未来を、共に築いて行きましょう。本日はどうもありがとうございました。





## ～明日の医療・医学を創る力に～ 附属病院 再開発計画

筑波大学附属病院では現在、新棟の建設を中心とする再開発計画が進められています。ここでは、民間の資金、経営能力及び技術能力を導入した、本計画の概要を紹介します。

### 再開発の目的

- 病院の施設環境を抜本的に改善し、大学病院の使命である高度先端医療、先進的医学教育、そして臨床医学の力となるべき研究を確実に推進・持続発展させます。
- 産・官・学の英知を結集し、地域とも密接な連携の下に、病院経営の更なる健全化を図るとともに、わが国のモデルとなる医療提供体制の構築を目指します。

### PFI方式の採用

- 本事業は、民間の資金や経営・技術的能力を活用するPFI(Private Finance Initiative)方式で進められています。大学とPFI事業者がパートナーとして協働し、質の高い再開発を実現します。
- 本事業では、まず新棟を建設し、その後、既存棟を改修します。新棟の供用開始から、新棟と既存棟の施設維持管理及び運営支援等業務を行うことになっています。事業期間は平成21年2月から平成44年3月までの約23年間の予定です。

### 再開発が目指すもの

- 先進的医学教育の提供
  - 新カリキュラムに基づいた先進的な医学教育を強力に支援するための諸設備を整備します。
  - 早期体験学習や少人数グループ学習が可能となる諸室を配置し、e-learning、スキルスラボをはじめとした教育支援施設・システムを整備します。
- 地域との密接な連携体制の構築
  - 総合周産期母子医療センターや茨城県難病相談・支援センター、地域がん連携拠点の整備により、自治体との連携事業を展開し、地域医療体制の構築を推進します。
  - プライマリケア、専門診療の研修を地域と共に展開するために、地域医療研修ステーションを茨城県・県医師会との連携の元に整備します。
- 病院経営の更なる健全化
  - 高度な手術件数増、入院診療への集中などによる診療単価の向上を目指します。
  - 病院管理・運営システムの統合的アウトソーシングの導入による業務の効率化を図ります。



- 患者アメニティーを向上し、市民向けのサービスを拡大します。
- 高度先進医療の実現
  - 高機能手術室・集中治療病床・急性期病棟・救急部等の施設整備を推進します。
  - 患者の視点に立ち、地域の中核となる統合的な診療センターを設置します。
  - DPCに即した密度の高い入院診療を安全かつ効率的に行うために必要となる人的資源を確保します。
- 臨床医学の力となるべき研究の推進
  - 学際連携によるプロジェクトを展開します。
  - 産学連携による病院機能の拡充と新技術・サービス開発を実現するための施設を整備します。

## 新棟の施設概要

新棟は、鉄筋コンクリート造地下1階地上12階の建物で、高機能手術室や集中治療病床、救急部、急性期病棟などで構成されます。建築面積は、ホール、渡り廊下を合わせて4万5,986㎡となっています。平成24年9月末に竣工し、開設準備を経て、平成25年1月から供用を開始する予定です。

外観は、既存病院と調和しながら、新しい病院のシンボルとして堂々としたものとなっています。トップライトや、水平方向に視界が広がるエントランスホールなど、明るくて分かりやすい内部空間となっています。

平面プランは、手術室の増設スペース確保やレイアウト変更が可能な病室など、将来の変化に対応できるようになっています。また、新棟に隣接して増築が生じた場合に、現在の平面形と動線がそのまま生かせるような建築計画となっています。

新棟は、災害に強い病院としても計画されています。免震構造を採用し、大災害時にも病院機能を維持できるようになっています。また、エントランスは、災害時の治療スペースとしても利用可能になっています。最上階にはヘリポートを設け、救急部門や手術部門とエレベーターで直結します。



現在の工事の様子

屋上2階	屋上ヘリポート、機械室
屋上1階	機械室、設備機器置場
12階	展望喫茶
11階	病棟75床(ビジネスタイプ、女性専用)
10階	病棟88床(一般)
9階	病棟88床(一般)
8階	病棟88床(一般)
7階	病棟88床(一般)
6階	病棟74床(小児、無菌)
5階	病棟62床(GCU・NICU・MFCU・産科)
4階	ISS(設備展開スペース)
3階	手術部
2階	ICU・CCU・PICU・HCU、血液浄化療法部、医療情報部
1階	救急部、画像診断部(MRI・CT・一般撮影)、薬剤部
地下1階	物流センター、機械室 電機室
免震層	免震装置

フロアガイド(予定)



エントランスホール(イメージ)



病室(4床室)(イメージ)

### ◆ 6月24日に新棟の起工式が行われました

起工式には、文部科学省、茨城県、関係病院長をはじめとして学内外の関係者約130人が出席し、新棟工事の安全を祈願しました。山田信博学長とPFI事業者である(株)つくばネクストパートナーズ(TNP)の石田康取取締役社長からあいさつがありました。



あいさつする山田学長

### ◆ 工事仮囲いのデザインについて

工事現場の仮囲いに描かれているイラストは、附属病院で生まれたデザイナーによるものです。本院に通院していた子どものころを懐かしく思い出しながら描いたそうです。筑波山やつくば市内の主要建物がポップな感じで表現されており、明るい雰囲気を与えています。



## 遺伝子実験センター

食料自給率の低下が叫ばれる中、それを補てんするものとして、遺伝子組換え食品が注目されています。そんな中、筑波大学遺伝子実験センター（鎌田博センター長）は、最先端の遺伝子実験施設の提供や自らの研究を行うと同時に、国内外の食品安全にかかわる基準作りから、正しい情報を世界中から集めて、それらを世の中に発信していくなど、さまざまな役割を担って活動をしています。本センターは、本年度から全国の共同利用・共同研究拠点と認定され、ますます重要性が高まっています。



遺伝子実験センター



隔離ほ場外観

### 国内最大規模の遺伝子組換え植物研究施設

1984年、本センターは4つの重要な役割を担って設立されました。遺伝子の構造・機能に関する先端的な研究の実施、学内外における遺伝子組換え実験の安全管理、学内共同利用施設としての高度な遺伝子関連実験機器・実験場所の提供、学内外に対する遺伝子関連実験技術の普及・教育を目的として運営されています。以来、改組、拡充を重ね、現在では実験棟の増設および、センター専任教員の増員によって、教員10人、技術職員1人、事務職員2人の体制になりました。2010年には、遺伝子組換え植物に関する研究拠点として高い評価を得てきた本センターは、文部科学省から「共同利用・共同研究拠点」の認定を受け、最先端の遺伝子研究に必要な、高度な関連実験機器や実験場所の提供を行っています。

### 次なる目標は国際拠点

本センターでは、2008年度から専任教員によって、トマトのナショナルバイオリソースプロジェクトを進めております。また、その他の研究も含め、基礎研究を中心に努めてきました。現在は、海外とのやり取りに必要な相談窓口として、国際拠点になることも目指し、その事前のものとして、フランスの農水省研究所にあたるINRAと契約し、日仏共同研究拠点（ジョイントラボ）を設立、研究・人材交流を図り、ラボの相互利用も進めております。また、日本で

第一例目となる遺伝子組換え植物（樹木）の第一種使用の大臣許可をとり、耐塩性遺伝子組換えユーカリの栽培実験も始まっています。環境問題が世界中から注目されている今、環境ストレス、特に乾燥に強いユーカリは、二酸化炭素の削減や紙の原料としても期待され、アフリカとの連携も進んでいます。一方、コーデックス委員会<sup>\*</sup>で



遺伝子組換えトマト

も、日本が決めた遺伝子組換え食品安全性評価基準が国際標準になるなど、遺伝子組換えの研究では、世界を牽引してきたと言っても過言ではありません。2010年10月には「生物多様性条約」に関する国際締約国会議が日本で開催され、この会議にも本センターは深くかかわっています。



屋外試験栽培中の遺伝子組換えユーカリ



シロイヌナズナの曜日時計変異体

で、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



## ■ 遺伝子組換えに関する正確な知識の普及と発信

「形質転換植物デザイン研究拠点」の中に、遺伝子組換え技術への理解を深めてもらうべく、「情報発信技術研究部門」が設置されています。本センターの役割の一つに、遺伝子組換えや遺伝子に関する正しい知識を、いかに世の中に広めていくかという課題があります。

鎌田センター長は、「一時期、メディアが流した遺伝子組換え



動物分野の研究(マウス)

食品を食べた虫が死んでしまうという情報が蔓延し、いまだに強烈な印象となっていますが、一度、根付いてしまった誤解を解くのは至難の業です。そもそも遺伝子組換えというのは、人間が作った技術だという認識は間違っているのです。土壌中にいるある種の微生物は、勝手に自分の遺伝子を植物の中に入れて、つまり、遺伝子組換えはもともと自然現象ということだからです。今、出回っている遺伝子組換え食品は、きちんと食品安全委員会で安全性のチェックをし、承認されたものしか市場に出してはいけないことになっていますので、危険性はありません。このような遺伝子組換えの正確な知識を普及するためにも、私たちは発信し続けていかなくてはなりません」

と話しています。そのために、講演会や体験学習だけでなく、教育から変えていく必要があり、教員向けのトレーニングコースの普及や小中高生の教科書を、今までとは違い、遺伝子から教えるように改定作業も進められています。

## ■ これから遺伝子研究を学ぶ人たちに向けて

鎌田センター長は、「本センターには、一年間で約40校の高校が見学に来ます。また、茨城県の中学1、2年生を対象とした、『中学生ミニ博士コース』という体験学習も行っています。そこでは、遺伝子組換えに関して、正しい知識の普及に努めています。これから学ぶ人たちには、研究者こそコミュニケーションが大事だということ、そして常に社会とつながっていることを意識しながら、研究に励んでほしいと思います」と熱く語っています。



一重咲きのアサガオ



八重咲きのアサガオ

※：コーデックス委員会は、消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1962年に国連食糧農業機関 (FAO) 及び世界保健機関 (WHO) により設置された国際的な政府間機関であり、国際食品規格の作成等を行っています。わが国は1966年から参加しています。(農林水産省ホームページより)

## 「自主・自律・自由がモットー」 筑波大学附属高等学校



### 120年の歴史と重み

地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」、有楽町線「護国寺駅」から徒歩約5分の文教地区に学校はあり、敷地内には、筑波大学附属中学校もあります。周辺には、お茶の水女子大学、跡見女子大学、拓殖大学など多くの大学が林立しています。

総定員は720人(各学年6クラス)。男女比は1:1で、うち65%は本学附属中学校の出身者です。教員は42人、事務職員は4人です。

歴史をたどると、1888(明治21)年に高等師範学校の尋常中学校として創立。その後、東京教育大学附属高等学校などを経て、現在の筑波大学附属高等学校となりました。2008(平成20)年には創立120年周年を迎えた、歴史と由緒ある学校です。

卒業生には、鳩山一郎(元内閣総理大臣)、畔柳信雄(三菱東京UFJ銀行会長、筑波大附属中・高同窓会長)、岩崎洋一(前筑波大学学長)、石弘光(前一橋大学学長)、野村萬斎(狂言師)、星新一(作家)、今村昌平(映画監督)、嘉納行光(講道館名誉館長、元本校校長、嘉納治五郎の孫)らがあり、政財界はもとより、スポーツ、文化・芸術なども含め、幅広い分野で多くの卒業生が活躍しています。

### リーダーを育てる、全人教育

本校の教科教育が日本の教育会をリードしてきたことは万人が認めており、先生と生徒が共に考える質の高い授業が行われています。カリキュラムを見ると、体育、芸術などの教科にも力を入れており、理系・文系の区別なく基本的な教科を満遍なく学んでいます。また、学業だけではなく、ほとんどの生徒がクラブ活動に参加しています。文化祭や体育祭、他校との定期戦、クラス合宿や修学旅

行など諸活動も盛んで、それらの活動については、生徒委員会が組織され、生徒が自主的に運営しています。

本校は、受験勉強に特化している高校と違い、幅広い視野を持ち、高い見識を持った人間を育てる、全人教育を目標にしています。

### 国際的人材を育てる

本校は、グローバル化社会において国際教育にも力を入れ、帰国生徒枠を設けています。毎年夏にシンガポールで開催される「アジア太平洋ヤングリーダーズサミット」には、2006(平成18)年から日本代表として参加しています。このサミットは、ネットワークづくりやリーダーの資質を磨くことを目的に開かれており、日本、中国、インド、アメリカ、イギリス、サウジアラビアなど12の国から約80人の生徒が招待されています。

サミットが開かれるシンガポールのトップ校であるホワチョン校とは、毎年、相互短期留学交流も行っており、昨年からは中国の高校生とも交流を図っています。

### 附属高校生の誇り持つ卒業生

本校は、高校から入学してきた生徒も同じクラスと担任で3年間を過ごすこととなるので、人間関係は濃密になります。小中高の12年間、または中高の6年間を継続して過ごした仲間も多く、卒業後もつながりが非常に強いのが特徴です。

卒業生は、クラス会などを頻繁に開いて情報交換をしたり、1年生が実施する蓼科合宿に参加してリーダーの役割を果たしたり、部活動のコーチとして練習を見たりと、“附属魂”を伝承しています。

もそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。

3校(附属小、附属中、附属高)のリーダー的な存在である筑波大学附属高等学校を紹介します。



### ◆定期戦

長い伝統を誇る本校は、各種スポーツ(部活動)の定期戦を行っています。ここでは、主な定期戦をご紹介します。

#### 【院戦】

学習院との対校戦を院戦と呼んでおり、現在は総合定期戦と称しています。最も古い院戦は1896(明治29)年の野球の対校戦といわれ、その後、柔道、剣道、弓道、陸上、射撃、水泳による対校戦が行われ、戦後にバレー、サッカー、バスケット、テニス、バドミントン、ボート、卓球、馬術などが加わり、バンカラ応援団やチア・リーダーの演技も取り入れられ、生徒ばかりでなく、卒業生や保護者も熱狂する一大イベントとなっています。この院戦を最後に、ほとんどの3年生が部活動を引退するので、その力の入れようは相当なもので、3年生にとっては最大のイベントです。



応援するチア・リーダー

#### 【開成ボートレース】

1920(大正9)年に始められた開成高校とのボートレースは、早慶レガッタをしのぎ、日本で最も歴史ある対校戦レガッタです。毎年、戸田オリンピックコースを会場に、一年生全生徒が応援する中、ボート部の選手は附属の名誉を掛けて、全力で1000mを漕ぎ抜けます。



#### 【湘南戦】

サッカー部は、1947(昭和22)年から神奈川県湘南高校と、ホーム&アウェー方式で定期戦を行っています。試合は現役生以外に卒業生同士の対戦もあり、卒業生にとっては、まさに青春の1ページがよみがえる時間です。



### ◆附属対決

なんと!珍しいことか——第92回全国高校野球選手権東京大会の1回戦で7月9日、本学の附属高校と附属駒場高校が対戦しました。スコアのとおり<sup>\*</sup>、駒場高が1回に先制、すると5回に附属高が逆転。その後も、逆転に次ぐ逆転の目が離せないシーソーゲームを展開。ついには延長11回、附属高が取った1点が決勝点となり、両校意地をかけた白熱の附属対決を制しました。

<sup>\*</sup>

＼	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
附属	0	0	0	0	2	1	2	2	0	0	1	8
駒場	1	0	0	0	2	0	4	0	0	0	0	7



整列する両校(手前が本校)

## 第9回 女子バスケットボール部

### 強固な守備からリズムをつかみ全国制覇へ!



「女子バスケットボール部」(大高敏弘顧問兼部長)は本学前身校時代の1952年創部。これまでに、インカレ優勝9回、リーグ優勝15回、トーナメント優勝11回など輝かしい戦績を誇り、大学女子バスケット界をリードしている。

現在、部員は25人。コーチやトレーナーには、同部をよく知るOGらがそろい、本年度は『つながりを越えたつながり〜丸〜』をチームテーマに掲げ、大学女子バスケットの頂点を目指して昼夜練習に励んでいる。

同部のプレースタイルは、伝統的に守備を重視。強固なマンツーマン・ディフェンスに時間をかけ、速攻で攻撃する。そのため、相手チームにもなかなか得点を許さず、ゲームはロースコアの展開になることが多い。

今春のトーナメント戦は決勝で敗れ、課題が見えた。夏の合宿練習では、体力と精神面の向上、より粘り強いディフェンス力を増すことを意識し、厳しい練習を積んできた。

「24秒ルール<sup>\*</sup>を利用し、ディフェンスに徹し、相手のプレー手数を増やして攻撃ポイントを絞り、ミスを誘う。粘り強さで勝負」(大高監督)。そこからパスをつなぎ、相手ディフェンスを縫って、巧みなドリブル、そしてシュートへ流れるプレーで確実に得点を狙う。

チームの中心選手は4年生の服部直子選手(主将、#5・

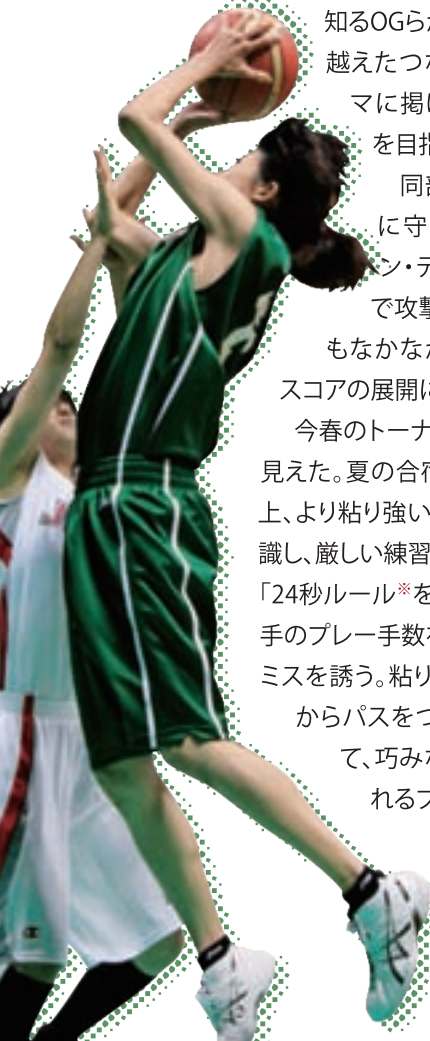
センター)、福士佳恵選手(#4・パワー・フォワード)、宮本理沙選手(#2・シューティング・ガード)の3選手。息の合った連携プレーでチームを引っ張る。

昨年度の三大会は、トーナメントとリーグ戦で準優勝、インカレは5年ぶりの優勝を果たした。毎年、卒業で主力選手が入り替わるため、常にチーム力を維持することは容易ではない。しかし、3年生の天野佳代子選手、水谷佳代選手、2年生の伊集南選手、淀野潮里選手ら戦力が整っている。さらに、チーム内の競い合いもレベルアップにつながっている。大高監督は「信頼のおける選手が多い」と目を細める。

同部が誇るツインタワー服部選手と福士選手は、昨年インカレで共に優秀選手に輝いた。ますます厳しくなるだろう相手チームのマークも想定内。服部選手が見せる絶対的なゴール下の安定感、福士選手が相手ディフェンスを引き付けてアシストするなど、ツインタワーの威力十分だ。

「個々の能力があっても、チームとして機能していなければ勝つことはできない。練習の成果を発揮して、悔いのないように1試合1試合、全力でプレーしたい」と服部主将。福士選手は「他校もいろんなシステムを研究しているはず。私たちはチームワークの良さを出して、自分を生かしつつ、チームも生かすプレーを心掛け、やるべきことをやるだけ。そうすれば、優勝が見えてくる」と自信を見せる。

昨年インカレの準決勝、拓殖大学戦が「事実上の決勝だった」(大高監督)とい



うほど、過去に何度も試合で火花を散らしてきたライバル校とは、リーグ最終戦で対戦する。

グリーンを基調とする愛着あるユニホームは、来年度から本学統一カラーの明るいブルーに変わる。「ちょっと寂しいかな」と服部選手。宮本選手は「ユニホームが変わっても筑波大のバスケが変わるわけではないから」と、変わらぬ勝利と一層の飛躍を後輩に託す。

コートを縦横無尽に動き回るグリーンのユニホーム姿が見られるのは、残りインカレのみ。宮本選手は「筑波大らしい楽しいプレーで、勝ちにこだわっていききたいので、応援よろしくお願いします」と力を込める。

それぞれの思いを胸に、一丸となり、厳しい暑さと猛練習

※24秒ルール オフェンスチームはボールを保持してから24秒以内にシュートを打たなければならない。24秒以内にリングに当たるかゴール、ファウルをされる等があった場合は、リセットされる。24秒を超えるとバイオレーションとなり、相手チームのスローインでゲーム再開となる。

写真提供:筑波スポーツアソシエーション

を乗り切った成果は、きっと日本一へつながっているに違いない。



このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】ホームページ <http://club.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

## 女子バスケットボール部 [記録・日程]

- 関東大学女子バスケットボール選手権大会  
準優勝 敢闘賞:服部直子 ベスト8賞:宮本理沙 リバウンド王:服部直子
- 第27回日本女子学生選抜バスケットボール大会  
優勝 関東選抜チーム ※本学から7人選抜 最優秀選手賞:服部直子
- 第60回記念関東大学女子バスケットボールリーグ戦(1部)  
9/4~10/24 国立代々木競技場第二体育館

## 剣道部 [記録・日程]

- 第58回全日本学生剣道選手権大会  
【個人戦】ベスト8 佐伯太郎
- 第57回全日本学生剣道東西対抗試合  
【団体戦(東軍)】神田智浩
- 第4回全日本女子学生剣道東西対抗試合  
【団体戦(東軍)】原口理恵子
- 茨城県選手権  
準優勝 遅野井直樹※全日本選手権出場権獲得
- 第36回関東大学女子剣道選手権大会  
優勝
- 第58回全日本学生剣道優勝大会  
10/31 日本武道館
- 第29回全日本女子学生剣道優勝大会  
11/14 春日井市総合体育館

## 弓道部 [記録]

- 第58回全日本学生弓道選手権大会  
【男子団体】ベスト8  
【女子団体】3位

## 女子サッカー部 [記録]

- Liga Student2010  
優勝 ▽MVP:古山優衣▽ウーマン・オブ・マッチ:筏井りさ

## ダンス部 [記録]

- 第23回全日本高校・大学ダンスフェスティバル  
文部科学大臣賞 作品「坐ることを拒む椅子」

## 男子バスケットボール部 [記録・日程]

- 第59回関東大学バスケットボール選手権大会  
3位 優秀選手賞、アシスト王:田渡修人
- 第86回関東大学バスケットボールリーグ戦(1部)  
9/4~10/31 国立代々木競技場第二体育館

## 水泳部 [記録]

- 第86回日本選手権(競泳)  
【男子50m自由形】3位 小林拓矢
- 第86回日本選手権(飛込)  
【男子1m飛板飛込】優勝 岡本優 356.25  
【男子3m飛板飛込】3位 岡本優
- 第86回日本学生選手権水泳競技大会(競泳)  
【男子50m自由形】2位 小林拓矢  
【男子200m個人メドレー】植木拓斗
- 第86回日本学生選手権水泳競技大会(飛込)  
【男子団体】優勝  
【男子3m飛板飛込み】優勝 岡本優 394.65  
【男子高飛込】2位 岡本優  
【男子高飛込】3位 小林和真
- 第86回日本学生選手権水泳競技大会(水球)  
準優勝

## 陸上競技部 [記録]

- アジア・ジュニア選手権(ハノイ)  
【女子棒高跳び】2位 榎本優子  
【女子ハンマー投げ】2位 糸満みや
- 第79回日本学生陸上競技対校選手権大会  
【団体女子】優勝※2連覇  
【男子800m】2位 中村康宏  
【男子100mハードル】優勝 大室秀樹 13秒76  
【男子走り高跳び】2位 戸邊直人  
【男子砲丸投げ】2位 辻明宏  
【女子走り幅跳び】2位 中野瞳  
【女子円盤投げ】2位 高橋亜弓

## ライフセービング部 [記録]

- Japan Lifesaving Super series 海救 下田ラウンド  
【フレッシュマンボードレース】3位 鶴蘭海海

## 第9回 焼き物をつくる会

### 創作の玉手箱 ～熱く燃える“陶魂”集団～



「ろくろを回してみたい」「オリジナル陶器を作りたい」「土に触ってみたい」入会の動機はさまざま。肉や魚などの“焼き物をつくる”料理サークルだと勘違いする入会者もいるらしい。笑い話のような本当の話だ。そんな人たちをとりこにする「焼き物をつくる会」(齋藤敏寿顧問)は、筑波大学開学以来、今年36年目を迎えた陶芸サークル。活動は個人作陶を中心に、展示会や即売会など。毎週木曜、午後6時半からアート・デザイン実習室でミーティングを行い、そのほかは各自で作品づくりに取り組んでいる。所属メンバーは大学院生も含め約30人。思い思いの作品を生み出すべく、土と向き合っている。

会員のほとんどが入会するまで陶芸経験ゼロ。ろくろの使い方や釉薬<sup>うわくすり</sup>の配合、成形など、陶芸の“イロハ”はすべて、先輩たちが指導する。作品完成までの工程は、土練り、成形、素焼き、乾燥、本焼き、窯出し。中でも「焼き物をつくるための、“もと”をつくるのが一番大変な作業です」と鶴見俊允会長(日本語・日本文化学類3年)。鶴見会長の言う“もと”とは、釉薬と土のこと。素焼きした後に作品にかける釉薬は、灰と土が主な原料で、それに銅や鉄などの酸化金属を混ぜて調合する。同会では市販の粉状のものを水に溶き、ミルで攪拌<sup>かくはん</sup>して作っている。そして、土の準備も肝

心だ。土の中の空気を抜き、水分が均等に行き渡るように、ひたすら土をこねる「練り」と呼ばれる作業で、これを十分に行わないと、焼成時に作品に空気が入って膨張し、破裂の

原因になってしまう。「腕と腰に負担がかかり、すぐ疲れる」が、完成を左右する大事な作業なので、手抜きは許されない。

成形は電動ろくろを使用する。難しいのは力加減だ。わずかな力でも形が崩れるため、「慎重に繊細に、優しく丁寧」を心掛ける。鶴見会長は「作業が丁寧な人の作品は、仕上がりも良好の場合が多いです」と、手間を惜しまない繊細さが大切と語る。

同会では灯油窯を所有しているが、使用ごとに大幅な経費がかかることから、学園祭前や、まとまった作品数の焼成以外は、芸術専門学群所有の電気窯を使用する。最高1250℃まで上がった窯内が冷め、熱がとれた作品を取り出す時が、緊張の瞬間だ。鶴見会長は「うまく仕上がっているか、窯出しが一番ドキドキする。思い描いたとおりにいかないところが、陶芸の魅力」。さらに







「制作中は完成イメージはあるものの、釉薬が熱で溶けて、どのような色合い、風合いにできているのか、完成形を初めて目にする、その瞬間が楽しみ」と話す。酸化と還元で色合いに変化がでる。失敗もあるが、「そこから生まれる発想や新たに学ぶこともあり、次へのステップ」と前向きに捉える。また、「焼き物を始めてから、食器類は自分で買わなくなった。簡単なものは自分で作れますから」と言い、大学近くの居酒屋で同会制作の皿が使用されており、「OB関係者の店ですが、実際に刺身が盛られて使用されているのを見ると、うれしい。これぞ地域交流です」と誇らしげだ。

茶碗や皿、湯のみ、花瓶など機能性と実用性を兼ねた作品を中心に、毎年『雙峰祭』で展示販売を行っている。手

作りならではの素朴な味わいや、普段使いできる手軽さ、そして低価格も魅力で、多くの陶芸ファンが足を運ぶ。学園祭用の作品制作に、会員1人あたり50作品以上を作り上げた。鶴見会長は「雙峰祭は地域の人たちとかかわれる大切な機会。実用的な作品をたくさん用意しています。ぜひ足を運んで、気に入ったものを見つけて下さい」と来場を呼び掛ける。

「各自が持っている発想や技術、感性すべてを出して、今しかできないものを作品に反映していきたい。」

土と熱(炎)と向き合っの真剣勝負。彼らは、熱く燃える“陶魂”集団だ。



マスコット「ヤキモノン」



このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

### 混声合唱団

12/23 第35回定期演奏会

[場所] ノパホール

### THK筑波放送協会

12/19 NHKラジオ第一放送「浜マガZ」公開生放送

[場所] 大学会館ホール

[時間] 午後7時20分～同9時55分

## 世界柔道選手権2010東京大会で本学学生、卒業生が大活躍

柔道の世界選手権2010が東京・国立代々木競技場第一体育館で9月9日～13日の5日間で行われ、本学の学群生4人、大学院生3人、卒業生3人の10人が日本代表選手として参加しました。

連日、各階級で熱戦が繰り広げられ、本学学生が金2、銀1、銅3、卒業生が金2、銀1、銅1の合計10個のメダルを獲得する大活躍を見せました。

今大会のメダルには、講道館柔道の創設者であり、「柔道の父」と呼ばれた、生誕150周年の嘉納治五郎の姿と彼の教えである「精力善用 自他共栄」の文字が彫られています。



強烈な投げを放つ森下純平選手

なお、今大会、本学関係の獲得メダル数は、日本選手団が獲得した全23個のうち、4割強を占めたこととなります。



表彰台に立つ森下純平選手

### 本学関係者のメダリスト一覧

金メダル	
男子66 <sup>kg</sup> 級	森下 純平 (体育専門学群2年)
男子73 <sup>kg</sup> 級	秋本 啓之 (人間総合科学研究科体育学専攻2年:了徳寺学園職)
女子78 <sup>kg</sup> 超級	杉本 美香 (体育専門学群卒:コマツ)
女子無差別級	// //
銀メダル	
男子90 <sup>kg</sup> 級	西山 大希 (体育専門学群2年)
女子48 <sup>kg</sup> 級	福見 友子 (体育専門学群卒、人間総合科学研究科体育学専攻修了:了徳寺学園職)
銅メダル	
男子60 <sup>kg</sup> 級	平岡 拓晃 (人間総合科学研究科体育学専攻1年:了徳寺学園職)
男子73 <sup>kg</sup> 級	栗野 靖浩 (体育専門学群4年)
男子81 <sup>kg</sup> 級	高松 正裕 (体育専門学群卒:桐蔭学園高等学校教員)
女子78 <sup>kg</sup> 級	緒方 亜香里 (体育専門学群2年)



組手を争う福見友子選手



金メダルを獲得し笑顔の秋本啓之選手



相手をにらむ平岡拓晃選手

## TSUKUBA STUDENT FORUM 開催

本年4月からスタートした筑波大学の“TSUKUBA BRANDING PROJECT”の一環として、「TSUKUBA STUDENT FORUM」が7月4日、大学会館で開催されました。同フォーラムは、プロジェクトをより理解し、参加するきっかけとなることを目的に、学生団体「RIZE TSUKUBA」との共同運営で開催。同フォーラムは第1部がトークセッション、第2部が公開座談会の2部構成で行われ、学生や卒業生、教職員ら約150人が参加。本学ブランディングプロジェクトに対する関心の高さがうかがわれました。

第1部では、「国際性」「教育」「テクノロジー」「ベンチャー」および「筑波ライフ」の各分野で主体的に活動している学生が、トークプログラムを進行するファシリテーターとなり、それぞれの分野からみた筑波大学の良さや話題性などを話し合いました。

第2部は、“IMAGINE THE FUTURE.”のスローガンとメッセージソング作詞を手がけていただいた、OBでコピーライターの一倉宏さんを司会者に、山田信博学長、メッセージソングを作曲いただいたOBの作曲家・吉川洋一郎さん、出版や広告の分野で活躍しているOB・OG、全学学類・専門学群代表者会議代表およびTSUKUBA BRANDING PROJECT 関係者が公開座談会を行い、同プロジェクトの経緯・目的を踏まえた筑波大学の特徴を発信していく手段・方法などについて、活発で熱い意見を交わしました。

同フォーラム終了後に会場を移して行われた懇親会においても、山田学長やOB・OGと活発に意見交換する学生の姿が多く見られ、盛況のうちに閉会となりました。



スローガンについて熱く語る山田学長



公開座談会の様子



懇親会で学生と意見交換する山田学長

## 平成22年度第1学期末卒業式・大学院学位記授与式(7月期)

平成22年度の大学院学位記授与式(7月期)が7月23日午前11時から、第1学期末卒業式が午後1時から、それぞれ大学会館で行われました。

今回対象となった学生は学群が13人、大学院が117人(うち論文博士16人)です。



## 筑波大学と牛久市が連携協定締結

筑波大学と牛久市が7月28日、「国立大学法人筑波大学と牛久市との連携・協力に関する協定」を締結しました。

これは、本学と牛久市が地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成および発展に寄与することを目的としています。本学と地方自治体との連携協定の締結は、つくば市、茨城県、大子町、東京都文京区に続き、5件目となります。

牛久市との連携内容は、次の通りです。

- 1 教育、文化及びスポーツの振興に関すること
- 2 健康及び福祉の増進に関すること
- 3 地域資源の活用及び振興に関すること
- 4 地域の自然及び環境対策に関すること
- 5 まちづくりの推進に関すること

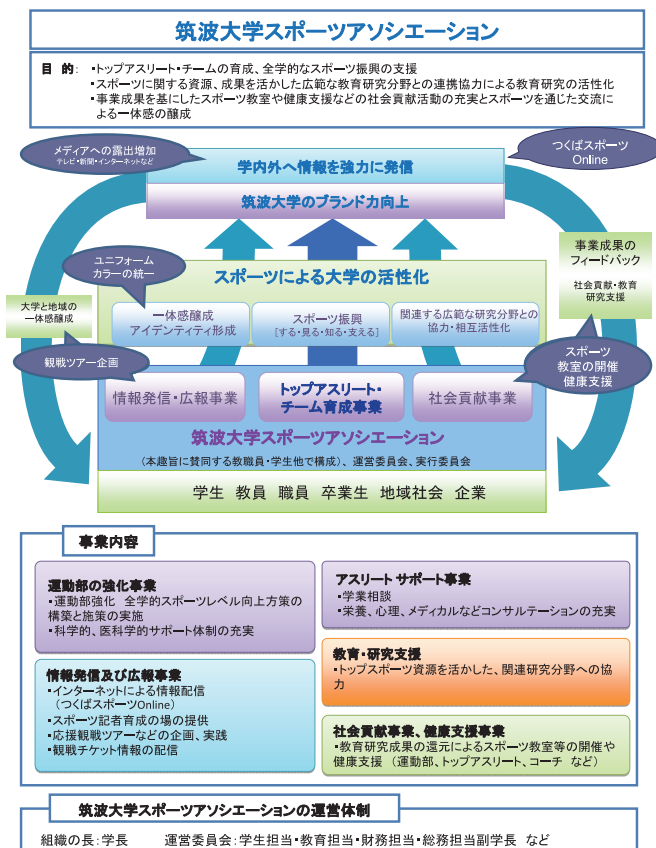


協定締結後、握手を交わす池邊勝幸牛久市長（左から2人目）と山田信博学長

## 「筑波大学スポーツアソシエーション」の設立・ユニホームの統一

従来、個々の運動部が行ってきたチームや選手の育成に加え、関連する競技や研究分野との連携協力による独自のコーチングでのトップアスリート・チームの育成強化を図るため、本年4月に「筑波大学スポーツアソシエーション」が設立されました。

活動の一環として、運動部ユニホームカラーや校章「桐の葉」、エンブレム、ロゴマークを統一することとし、アイデンティティーの形成、大学のブランド向上と一体感の醸成を、より推し進めることにしました。



ユニホーム(イメージ)

## 平成22年度受験生のための筑波大学説明会開催

「平成22年度受験生のための筑波大学説明会」が7月27日～29日の3日間、本学キャンパスで開催され、全国から約1万人の受験希望者が参加しました。

この説明会では、学類・専門学群ごとに教育課程、入学試験、卒業後の進路や学生生活などの説明が行われたほか、在学生による受験体験や大学生活の紹介も行われました。模擬講義が開かれたり、図書館や研究センター、学生宿舎の見学など、盛りだくさんの企画が用意されました。

恒例のアドミッションセンター教員による入試相談コーナーには、受験についての相談や質問があり、多くの熱心な参加者の姿が見られました。



大学キャンパスを散策する高校生たち



参加者で溢れる説明会場

## 平成22年度第2学期入学者入学式

平成22年度第2学期入学者入学式が8月6日、大学会館ホールで行われました。

同式には、入学者のうち、学群学生30人および大学院学生56人が出席。式では山田信博学長式辞のほか、本学サークルの筑波大学応援部WINSから、新入生にエールが送られました。

なお、入学者数は次の通りです。

・学群学生36人

【第2学期推薦入試(帰国生徒特別選抜) 15人、G30 21人】

・大学院学生102人(外国人留学生63人含む)

【博士前期課程48人、博士後期課程13人、3年制博士課程4人、専門職学位課程37人】



学長式辞



入学生にエールを送る応援団WINS

## 日本生物学オリンピック2010つくば大会開催

日本生物学オリンピック2010つくば大会(日本生物学オリンピック「生物チャレンジ2010」第2次試験、主催:国際生物学オリンピック日本委員会、共催:筑波大学、茨城県、つくば市ほか)が8月19日~22日まで、本学を主会場に開催されました。

全国2181人が受験した第一次試験を優秀な成績で通過した74人に、今年韓国で行われた第21回国際生物学オリンピック(BO)でメダリストとなった日本代表4人を加えた78人が参加し、実験試験による第二次試験に挑戦しました。また大会では、試験だけでなく、実験試験予備体験や最先端研究体験、サイエンスカフェ、特別講演会などのアカデミックなイベントや、筑波実験植物園やサイバーダイン社、つくばエキスポセンターへのエクスカッション、交流会など参加者同士の交流を深める企画が行われました。

閉会式では、BO台湾大会日本代表候補15人が発表され、続いて、金、銀、銅賞や筑波大学長賞などの特別賞が贈られました。最後に、総合成績第一位となった久米秀明さん(筑波大学附属駒場高等学校2年)に茨城県知事賞が贈られ、大きな拍手で祝福されました。式典の後、ホワイエで行われた交流会では、選手同士で写真を撮り、メールアドレスを交換するなど、別れを惜しむ姿があちらこちらで見られました。今後も、日本生物学オリンピックつくば大会は、隔年で開催される予定です。



茨城県知事賞の久米秀明さん(左)と山口やち糸県副知事



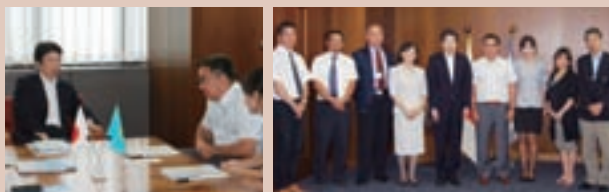
山田学長から筑波大学長賞を受ける附属駒場高2年の松田洋樹さん(左)



参加者全員での記念撮影

## 交流〈海外〉

9月8日(水) 学長表敬



来訪者:カザフスタン共和国 カザフ経済大学理事長一行  
目的:学長表敬及び日本の大学・大学院における大学経営・国際化に関する意見交換

9月10日(金) 見学・懇談



来訪者:中華人民共和国 中国青年代表団科学技術分団一行  
目的:21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)日中21世紀交流事業の一環

## 受賞

●主な受賞・表彰一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
社団法人電子情報通信学会情報・システムソサイエティ査読功労賞	天笠俊之 准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)	_____
DEIM2010(Date Engineering and Information Management)最優秀論文賞	北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻) 天笠俊之 准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)	_____
2010年度地理空間学会学会賞学術賞	湯澤規子 助教 (生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻)	_____

受賞名	受賞者（所属・学年）	指導・研究室
11th International Symposium on Spermatology (11th ISS) Best Poster Award	柴小菊 助教 (生命環境科学研究科 情報生物学専攻、下田臨海実験センター)	_____
第10回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会優秀演題賞	宜保英彦 後期研修医 (研修先:筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 内分泌代謝・糖尿病内科)	_____
財団法人三島海雲記念財団学術研究奨励金	三浦謙治 助教 (生命環境科学研究科、遺伝子実験センター)	_____
マルチメディア、分散、協調とモバイル(DICOMO) 2010優秀プレゼンテーション賞	金岡晃 助教 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)	_____
The 2010 World Congress in Computer Science, Computer Engineering, and Applied Computing Outstanding Achievement Award	西川博昭 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)	_____
The William C. Stokoe Award for the Best Poster at the 21st International Congress on Education of the Deaf 2010	鄭仁豪 准教授 (人間総合科学研究科 障害科学専攻)	_____
24th International Conference on Organometallic Chemistry Best Poster Award	桑原純平 助教 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)	_____
平成22年度独立行政法人科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業(CREST:第1期)に採択	末益崇 教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻)	_____
平成22年度倉掛賞(第20回体力・栄養・免疫学会大会優秀発表賞)	笹原信一朗 講師 (人間総合科学研究科 生命システム医学専攻)	_____
2010ヨーロッパ白内障屈折矯正手術学会フィルムコンテスト 準優勝	大鹿哲郎 教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻、附属病院診療科眼科長) 加治優一 准教授(人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻) 榎原潤 准教授(システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)	_____
European Symposium on Phase Change and Ovic Science 2010 (EPCOS 2010) Outstanding Poster Award	長谷宗明 准教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻)	_____
平成22年度日本体育学会学会賞	真田久 教授(人間総合科学研究科 体育学専攻)	_____
日本写真測量学会平成22年度年次学術講演会論文賞	村上大輔 (システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期課程2年)	堤盛人 准教授 (システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント工学専攻)
第29回社団法人日本表面科学会講演奨励賞(スチューデント部門)	本間裕二郎 (数理物質科学研究科 物質創成先端科学専攻[H21年度修了])	中村潤児 教授 (数理物質科学研究科 物質創成先端科学専攻) 近藤剛弘 助教 (数理物質科学研究科 物質創成先端科学専攻)
2010 American College of Sports Medicine International Student Award	松井崇(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期課程2年[日本学術振興会特別研究員])	征矢英昭 教授 (人間総合科学研究科 体育学専攻)
5th International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry (V ISMSC 2010) Poster Award	内田奈津子 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期課程2年)	神原貴樹 教授 (数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻)
DEIM2010 (Data Engineering and Information Management) 最優秀論文賞	Machdi Imam (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程[H21年度修了])	北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻) 天笠俊之 准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)
2010年度社団法人日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門ROBOMECH表彰	関口明生 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 博士後期課程1年)	荒井裕彦 教授 (システム情報工学研究科、連携大学院)
2010年度社団法人日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	近藤裕也 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻 一貫制博士課程3年)	住田孝之 教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻、臨床免疫学)
EULAR Abstract Awards 2010	吉本拓矢 (生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 博士前期課程2年)	中島敏明 准教授 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻)
SCOPE@つくばー未来を担う若手研究者の集い2010ー優秀発表賞	菴木嶺 (システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期課程1年) 木村康宏 (システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期課程2年)	大澤義明 教授 (システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻) 吉瀬章子 教授 (システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻)
Young Researcher Poster Award in International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals Young Researcher Poster Award	栗原佑太郎 (数理物質科学研究科 物理学専攻 博士前期課程2年)	守友浩 教授 (数理物質科学研究科 物理学専攻)
2010 International Symposium on Flexible Automation (ISFA2010) Best Paper Award (Application)	関口明生 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 博士後期課程1年)	荒井裕彦 教授 (システム情報工学研究科、連携大学院)
財団法人日本英語検定協会第23回(2010年)英検研究助成研究部門入選	高木修一 (人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 博士前期課程2年)	卯城祐司 教授 (人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻)
The 2nd International Workshop with Mentors on Databases, Web and Information Management for Young Researchers (iDB Workshop 2010) Distinguished Young Researcher Award	BOUKHELEF DJELLOUL (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程3年) HASAN ABDULREDHA SALEH KADHEM (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程2年)	北川博之 教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻) 天笠俊之 准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)
一般社団法人情報処理学会平成22年度山下記念研究賞	駒水孝裕 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程2年)	川島英之 講師 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)
The 4th AEARU(The Association of East Asian Research Universities:東アジア研究型大学協会) Advanced Materials Science Workshop Bronze poster award	眞壁健司 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士後期課程1年)	末益崇 教授 (数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻)
茨城県警察官採用募集ポスターを作成し、警察官採用募集に寄与したための表彰	那須田和美 (芸術専門学群2年)	_____

※所属、職名、学年は受賞当時

# 羽ばたく OB&OG



あき やま ひろ やす  
**秋山 浩保**さん  
柏市長

柏市長に就任して、まもなく一年を迎える秋山浩保さん(国際関係学類、92年卒)に、大学時代の思い出や外資系コンサルティング会社などでの経験、そして柏市の将来展望などを伺いました。



大学時代の広報誌【秋野先生(中央)と仮装した学生たち】



1968年 千葉県生まれ  
1992年 筑波大学 第三学群 国際関係学類 卒業  
// ベイン・アンド・カンパニー入社  
1995年 株式会社フォーシーズ 常務取締役  
1997年 経営コンサルタントとして、さまざまな会社の役員を歴任  
2009年 柏市長就任

—国際関係学類(現・国際総合学類)のご卒業ですが、  
進学の原因と、本学での思い出をお聞かせ下さい。

当時は国際関係という学科が珍しく、格好いいのと、それだけの理由で受験しました。入学して、秋野豊先生(元本学助教授。1998年7月、タジキスタンで国連政務官として平和維持活躍中、凶弾に倒れ殉職。享年48歳)との出会いが、私の人生の最大の財産になりました。秋野先生の授業内外さまざまな言動に夢中になり、その独特のフレーズを自分の会話に使ったり、サバの味噌煮を豪快に食べる姿すら格好いいとまねるほど憧れました。まだ進む方向が定まっていないこの時期に、理屈を超えた部分で、すごいと感じ、濃密に秋野先生の生きざまを自分なりに解釈し、脳を回転させる経験ができたことは、私の財産です。

—卒業後の進路決定の経緯をお聞かせ下さい。

就職先を考えていたころ、大前研一さんの著書を読み、外資系コンサルティング会社の存在を知りました。当時あまりメジャーでなかったコンサル会社を片っ端から受け、その中で「ベイン・アンド・カンパニー」とご縁があり、お世話になりました。

—どのような仕事をされてきたのですか。

就職したとはいえ、まだ社会常識もなく、試行錯誤の日々でした。内容もスケジュールも困難なプロジェクトが多く、必死にやり遂げました。その厳しさから、体力的にもう続けられないと思っていたころ、まだ創成期だった宅配ピザの会社から誘われました。ちょうど時流に乗っている会社で、組織の作り方、営業の考え方など、コンサル仕事で培った戦略の立て方がここでは新鮮に見られ、経理や企画、さまざまな経験をさせてもらいました。また、理屈がすべてのコンサル会社とは違い、「一緒にやろう」というハートが大事なのだと、確信した時でした。20代半ばで実務仕事の原体験を積んだ、この3年半があるから今があると言ってもいいくらいです。その後、同業の外食産業から社長をやらないかと声がかかりました。そこは、かつて業界トップの会社でしたが、倒産寸前の経営状態でした。私は同業界の経験があるので「よし、やってやる」と決断しました。初めて資金繰りの格闘を経験し、中小企業の苦しみを負いながらも、どうしたら業績が伸びるのかを考え、いろんな戦略を打ちました。すると、5年間ずっと下がっていた業績が、私が入って半年で好転し始めたのです。グンと雰囲気が変わり、再建することができました。この経験の



おかげでその後、経営コンサルタントとしてさまざまな会社役員などを経て、今に至りました。

#### 一柏市長選立候補のきっかけについて、お聞かせ下さい。

社会や政治にもともと興味を持っていて、報道番組を見ながら、行政というのは、売上という外部指標がない分、自分たちの中で無難にどうまとめるかの内向きの組織なのだろうと思っていました。民間の場合はどこかでお客さんに見放されて倒産してしまうけれど、行政の場合はそうはならないので、根底から変えなければいけないと思っていたころ、ご縁があり、立候補のお話を頂きました。

#### 一昨年11月に市長に就任され、もうすぐ1年になります。率直な感想をお聞かせ下さい。

最初は、予想通り内向きの組織だと思いました。これは相当、頑張らねばと奮起しました。市長というのは、行政サービスの社長として24時間があるイメージでしたが、なってみるとそれは半分で、残り半分が政治家のようだと感じています。政治家として、さまざまな市民の方とお会いして、話しをするわけです。それを通して、情報を頂くのは貴重だからおろそかにはできませんし、何かをお願いしたり提案する時に、人間関係が確立されて言うのと何も無い中で言うのでは全然違います。そのための活動や機会をこなしていくと、半分が政治家のようだと思うところがありますね。

#### 一行政の責任者として、市民の期待などいろんな声が聞こえてくると思います。柏市の将来をどのように見据えているのか、お聞かせ下さい。

市民の皆さんの期待は相当強く感じています。それは閉そく感の裏返しだと受け止めています。ですから、市民の皆さんの気持ちを豊かにしていきたいのです。柏市は都市住民の集まりなので、地域への愛着が薄いと感じます。地域に愛着があると、少々経済的に伸びなくても、仲間がいれば満たされた日常を感じるはずで、今、柏市は昭和40～50年代に移り住んできた人たちが定年を迎えて、地域で過ごす時間が増えています。ようやく3世代の厚みが出てきて、人間関係が成り立つように変化してきました。地域に対して愛情が増えていく土台ができたので、それを積み上げるように、いろいろなイベントの仕掛けや仕組みを作っていきたいと思っています。



清掃作業を体験する市長

#### 一柏市は東京大学や千葉大学と連携した街づくりも進めています。地方自治体と大学の連携について、考えをお聞かせ下さい。

私は筑波大で社会学や政治学、経済学、行政学などいろんなことを教わり、それらは社会生活に直結しているので、どれも魅力ある講義でした。ですから、大学の先生方の理論と市民の生活を結び付け、それをうまく活用していけば、地域交流の活性化へつながると思います。

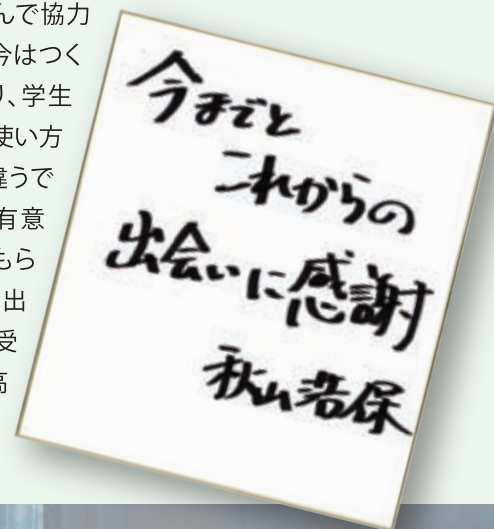


#### 一秋山市長の考える、住みよい街づくりとは。

働きやすい良い会社の特徴は、①リーダーに対する信頼②自分の仕事に対する誇り③仲間に対する連帯感の3つがあることだと言われていますが、これは住みやすい街にも当てはまります。行政に対する信頼。街への誇り。仲間への連帯感は、ご近所づきあいです。すべてがコミュニケーションでできるのです。柏市は歴史が浅いため、誇りが少ない。街に対する愛情をどうやって上げていこうか考えると、交通や生活の利便性も大切ですが、行政に対する信頼、街への誇り、親しくしているご近所が何人もいるという状況。人とのつながりが強い街が、私が求める住みやすい街ですね。

#### 一最後に、筑波大学と学生にメッセージをお願いします。

筑波大学には秋野先生をはじめ、綾部裕子先生、ゼミでは岩崎美紀子先生に大変お世話になりました。大学に恩返しをしなければと思っていますので、何かお手伝いできることがあれば、喜んで協力させていただきます。今はつくばエクスプレスが通り、学生さんの環境も、時間の使い方も私の学生時代とは違うでしょうが、皆さんにも有意義な時間を過ごしてもらいたい。そして人との出会いに大いに刺激を受け、モチベーションを高めてほしいです。



千葉国体の柏市炬火採火式

# リレー エッセイ

生命環境科学等支援室  
山本 由里子さん



もうすぐ息子の5歳の誕生日である。欲しいものが、たくさんある。買い物に行くと、「あれが欲しい」「これが欲しい」とうるさいので、「お誕生日に欲しいもの一つ買ってあげるね」と言っている。今回もいろいろ欲しいものがあつたのだが、とうとう本命が見つかったらしい。それが「中くらのカメ」である。「飼い方、分からないよ」というと「飼育図鑑で確認しないと!」という力の入れようである。生き物は、そのうち何か飼うことになるだろうと思っていたが・・・わが家に亀がやってくることになりそうだ。なんとか自分で世話をするように仕向けなくては・・・

今回は、システム情報工学等支援室の荒井陽子さんです。「書類担当の時にお世話になりました。お話していると元気が湧いてきます!カエルグッズ増えませんか?(笑)」

体育芸術系支援室  
山本 敦子さん



昔、PTAの編集後記に次の文章を書いた。「先日読んだ新聞に学校の先生が書いていた。卒業して、かなりたってからの同窓会に出席してみると、教え子たちはみんな『ただの人』になっていた。学校の時優秀だった子どもも『ただの人』。反対にてこずらされた子どももちゃんと『ただの人』になっている。親がどんなに叱咤激励したところで結局はそういうものかもしれないし、また、そんなに案ずることもないのかもしれない。(以下省略)」わが家も、離れて生まれた娘がやっと来春大学を卒業し、だんだん『ただの人』になってきた。

今回は、システム情報工学等支援室の川崎由紀子さんです。「病院の病歴室からの後輩です。幅広い交友関係の持ち主なので、きっと意外なところにリレーされるでしょう」

生命環境科学研究科  
生物圏資源科学専攻  
教授  
附属坂戸高等学校  
校長  
中村 徹さん



植物生態学の分野に足を踏み入れて、もう40年になります。テレビのドラマを見ても、後ろにある樹木が気になったり、道を歩いても目に映る植物の名前を確認したり、これはもう職業病です。毎年調査で行くモンゴルに、去年は気の合う仲間たちと行って楽しんできました。ほとんどが高校の生物の教員で、見渡す限りの草原に皆大喜び。キノコの専門家も地べたばかりを、鳥の専門家は空ばかりを見ている。でも私が花の話を始めると、サツと集まり、説明を聞きながら写真を撮りまくりです。瑠璃玉アザミ、デルフィニウム、エーデルワイス、マツムシソウなどなど。馬乳酒と羊肉を楽しみながら、モンゴルの大自然を満喫しました。

今回は、附属視覚特別支援学校副校長の星祐子さんです。「学校教育局の会議ではいつも隣の席次で、元気をもらっています」

生命環境科学等支援室  
香取 伸明さん



「目指せNHKのど自慢!!」を掲げて挑戦すること9回。いまだ本選出場までたどり着いていません。選曲がいけないのか?姿かたちがNHK向きじゃないのか?最初のころは柔道着を身にまとい『いなかっぺ大将』を歌ったりしましたが、最近では出場もさることながらチャンピオンになって「年度末にNHKホールで歌うこと」を目標に、毎年の茨城大会を心待ちにしています。そして今秋、10回目の挑戦が私を待っています。(永遠に挑戦のままだったりして・・・)応援よろしくお願いたします。

今回は、生命環境科学研究科 生物機能科学専攻講師の加香孝一郎さんです。「加香先生とは、TARAセンターに所属していた時から親しくしていただいている先生です」

生命環境科学等技術室

田所 千明さん



昨年から山登りを再開し、25年ぶりに尾瀬に行ってきました。昨今お騒がせの中老年登山者になりました。会津方面から燧岳ひろこを登り尾瀬ヶ原に入りました。天気は良く、途中にある「熊沢田代湿原」が素晴らしく、雲上の楽園でした(^o^)。宿泊予定の第二長蔵小屋は昔アルバイトをしたところ。受付には黒人の若者がいて、奥から出てきた男性は耳にピアスをしていました(・\_・)。翌日は朝からけっこうな雨で、ひたすら木道を見つめながら下山しました。途中、田舎の旧友からケータイが入り、友人のおやじさんが亡くなったとのこと。つくばに戻ってから帰省しました(°\_°)

今回は、総務部情報化推進課の葛山清光さんです。「昔から、何かと困った時に頼りになる、誠実さの変わらない貴重な方です」

人間総合科学研究科  
コーチング学専攻  
准教授

岡田 弘隆さん



小5の秋、友達に誘われて始めた柔道。私は柔道一筋の人生を送っている。選手、コーチ、審判員として、あるいは現地での指導のためにさまざまな国を訪れる機会に恵まれた。1年間、英国での在外研修も経験した。つい最近も、国際審判員ライセンス試験のため、マイアミに行ってきたばかりである。国内で行ったことのない都道府県は1つもない。柔道を通じて世界中に友達ができた。

現在は、つくばユナイテッド柔道代表として、子どもたちに柔道を教えている時間が楽しい。そして、3人の息子(中2、小6、小3)も全員柔道をやっている。父親としてこれほどうれしいことはない。柔道に感謝。

今回は、体育芸術系支援室の飯岡由美子さんです。「体育科学系事務におられた飯岡さんには、いろいろと助けていただきました。スポーツR&Dコアプロジェクト室に替わられましたが、再びお世話になります。よろしく」

図書館情報メディア研究科  
図書館情報メディア専攻  
教授

綿拔 豊昭さん



平社員だった金太郎が大手出版社社長に出世、電子書籍をすすめる今日このごろ、自分は老いの坂を転がり落ちている。かつての快樂「暴飲暴食」は老身に腰痛と高血圧をもたらし、薬を服用する日々である。そういえば、フルーティーですっきりとし、かつて至高の酒の一つと思った銘酒「大吟醸菊姫」も、ある時期から味がかわり、自分の好みではなくなった。最近「常きげん大吟醸斗びん囲い」が昔の「菊姫」の味によく似ておすすめである。美酒は感涙か嘆息か…、老いの身は美姫よりも美酒に囲まれることを好むが、病いの身は少飲を許すのみである。

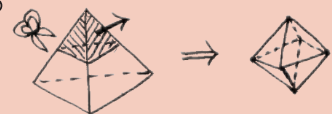
今回は、図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻准教授の白井哲哉さんです。「研究科の同僚です。よろしくお願ひします」

附属学校教育局  
教授

坪田 耕三さん



JICAの仕事でウガンダに行きました。周辺数カ国の先生方が集まる数学教育の会です。「Lets enjoy hands-on Mathematics」ということで、大封筒で正四面体を作りました。さらに、辺の中点を通る平面で4回切ると、四隅から4個のミニ正四面体が取れます。「その真中にはどんな形が残るか?」と聞きました。中から体積半分の「正八面体」が登場。上下にピラミッドがくっついた形です。「エジプトのピラミッドの下には、砂に埋まった逆ピラミッドがあるはずだ」と冗談を言ったのですが、いまひとつ通じませんでした。



今回は、附属小学校教諭の盛山隆雄さんです。「附属小学校の算数科の先生で、附属小6年目の若手先生です。ウガンダにも一緒に行きました」

※都合により、前号でご紹介いただきましたエッセイストが一部変更になりました。



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

**【茗溪会とは】** 社団法人茗溪会(西野虎之介理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立しました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

### 茗溪会賞(芸術専門学群)の作品紹介

平成18年度より、芸術専門学群の卒業制作のうち、特に優れた作品を表彰する「茗溪会賞」が設けられています。昨年度の「茗溪会賞」3作品と受賞者のコメント(要約)を紹介します。

『poetree』 シルクスクリーン・ミクストメディア(版画)

板垣 あかり

並べた二つの木の絵を対峙させることで、私の人生観において影響の強いものや、私の中に内在し今後開花しうるもの、未知なる影響への期待などにおける二面性を表現しました。この作品を通して一番表現したかった、家族や大学でお世話になったさまざまな方たちへの感謝、23歳の現在まで自分を支えてくれた全ての力への感謝が、いびつながら形にできたと思います。



『音文字POP-UP』 仕掛け本12点(ビジュアルデザイン)

高村 鈴菜

この作品は擬音語や擬態語などの文字による仕掛け絵本です。筑波大学生活の中で、アートやデザインを学びながら、理屈や理論を考えるよりも、誰もが純粋にそれぞれの視点で楽しむことができる作品というものを、常々考えてきました。それは同時に、子供時代と再び邂逅する作業でもありました。



『古今和歌集 卷第十二』 紙本墨書・卷子(書)

高橋 智紀(大学院博士前期課程芸術専攻)

「高野切」と呼ばれる現存最古の『古今和歌集』の写本は、今日ではその一部を遺すのみで、その全貌をうかがうことはできません。本作品は、第一種筆者が揮毫したと推定される巻十二を復元したものです。現存する断簡から、字母の使用頻度や行間の広さ、潤濁の変化に留意しつつ文字を集め原稿を作成し、それを基に全長4.75メートルの卷子に仕上げました。



### 茗溪会から学生活動助成金

第6回学生活動助成金の授与式が9月8日に行われました。

学内学生の11団体と2個人が、9月1日の審査会で認められ、授与式では、各団体の代表者に江田昌佑茗溪会副理事長から助成金決定通知書が手渡されました。

この事業は、茗溪会が母校への支援事業の一環として、学生活動に対し、助成金総額約300万円を支給しているものです。

#### ●助成金を受けた団体・個人

団体	宇宙工学研究会/つくば鳥人間の会/蹴球部/ダンス部/女子ハンドボール部/ライフセービング部/陸上競技部/芸術系サークル連合会/応援団WINS/管弦楽団/つくばらぼっとサークル
個人	高木功介(人文社会科学研究科 一貫制博士課程 国際政治経済学専攻)/高松正典(生物資源学類)



山田学長に助成金目録を手渡す江田副理事長



授与式の各団体代表の学生たち

### 茗溪会つくば地区公開講座

日時：2010年11月6日(土) 14:30～  
会場：筑波研修センター

【藤原教授の英語のはなし第3弾】

『単語はここが面白い』

講師：藤原 保明 (聖徳大学教授、筑波大学名誉教授)



本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

**【紫峰会とは】** 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

### ■紫峰会のコピー・印刷サービス

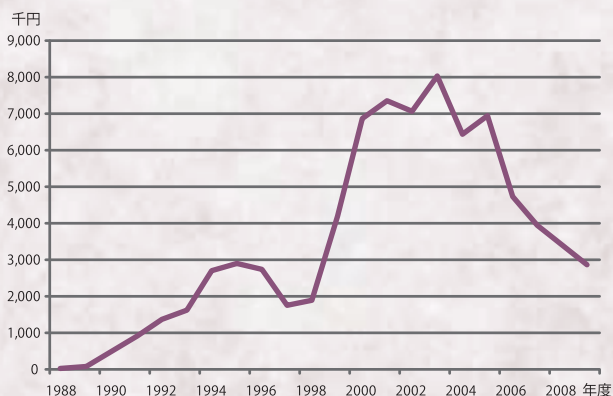
1988年、大学周辺のコピーセンターや学内のコピー機を利用して課外活動団体の複写費は、かなりの額になっていました。そこで、紫峰会が前年度に事務用として導入したコピー機を学生にも利用してもらおうと、コピーサービスが始まりました。

当時は、体育系サークル館や文化系サークル館で課外活動団体が使用していた印刷機の性能が悪く、評判があまり良くありませんでした。そこで、1990年に高性能なコピー印刷機を導入し、印刷サービスが始まりました。印刷機の性能が良いと評判になり、課外活動団体に専用のキーカードを配るなどしていました。

その後、1994年に紫峰会追越店（現UTshop追越店）を、2007年にUTshop大学会館店を開業し、コピーサービスを行っています。多いときには、年間800万円以上の売り上げがありましたが、最近はペーパーレス化が進み、利用は減少しています。しかし、いまだ根強く人気のあるサービスです。

紫峰会のコピー・印刷サービスは、大学周辺のお店よりも格安の値段設定になっています。これは、紫峰会がこのサービスを学生への支援と位置付けているためです。通常だと提供料金に加算されている機器のリース料金などを紫峰会会員の会費で賄っており、利用者は用紙やインク代などの実費のみを支払う仕組みとなっています。この概念は、紫峰会の多くの有償事業に当てはまり、紫峰会のサービスを多く利用することで、より多くの援助を受けることができます。

印刷・コピーサービスの売上の推移（全店舗合算値）



コピーサービスを利用する学生

### ●印刷サービス

1分間に100枚以上の印刷が可能です。サークルのチラシや名簿作成などによく利用されます。黒、赤、青、緑の単色印刷が可能です。

紫峰会大学会館4階事務所併設店にて提供しています。

#### 料金

1. 製版代：80円／版
2. プリント代（インク代）：1.5円／枚
3. 紙代：[A3] 1.9円／枚、[A4] 1.2円／枚  
[B4] 1.5円／枚、[B5] 1.0円／枚  
[角2封筒] 10円／枚、[長3封筒] 5円／枚

### ●コピーサービス

自動両面原稿送り装置と自動仕分け装置を装備しているので、面倒な大量のコピーも簡単に行えます。プリペイドカードを利用することで、安く利用することができます。フルカラーのコピーも可能です（プリペイド非対応）。UTshop大学会館店、UTshop追越店にて提供しています。

#### 料金

- a. フルカラーコピー（用紙共通）：30円／枚
- b. モノクロコピー（用紙共通）
  1. プリペイド方式
    - ・700円／100枚（7円／枚）
    - ・2000円／300枚（6.67円／枚）
    - ・5000円／800枚（6.25円／枚）
  2. 現金方式
    - ・大学会館店：10円／枚
    - ・追越店：8円／枚

# 本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(7月～9月)

## ● 新聞記事一覧

	記 事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	▽インサイド・記者の目:筑波研究学園都市 最先端技術を社会へ求められる国家戦略	サイバーデザイン 山海嘉之教授(システム情報工学研究科)	茨城(7.1)
2	▽茨城論壇:山田信博学長	山田信博学長	茨城(7.11,9.18)
3	国立大交付金削減に本学ら国立大学協会関東甲信越支部所属14大学が反対声明	山田信博学長	朝日(7.14,7.15)茨城(7.14)常陽(7.14)毎日(7.15)日経(7.15)産経(7.15)
4	本学と常陸太田市内の高校が連携で、高校生がまちづくり参画	藤川昌樹教授(システム情報工学研究科)	茨城(7.19)
5	本学で「夏休み子どもアート・デイキャンプ」始まる 子どもたちに絵画指導 芸術で地域貢献活動 作品展は8/17～27、本学総合交流会館で開催	芸術学系 体育科学系	常陽(7.23)朝日(7.30)
6	なぜ暑い?最高気温「日本一」の岐阜・多治見市 本学・計算科学研究センターの山下講師らが現地調査で検証へ	山下博幸講師(計算科学研究センター)	朝日(7.23夕)産経(7.25)
7	本学がスポーツ振興組織「筑波大学スポーツアソシエーション」(TSA)を設立 全学的にチーム、選手育成へ		常陽(7.27)
8	武道の必修化:山口香准教授 柔道で思いやり教えたい	山口香准教授(人間総合科学研究科)	朝日(7.28)
9	国際化学五輪で附属駒場高校3年の片岡憲吾さんが銀メダル	片岡憲吾(附属駒場高3年)	朝日(7.28)毎日(7.28)読売(7.28)日経(7.28)産経(7.28)東京(7.28)日刊工業(7.28,7.29)
10	本学と牛久市が協定締結 教育・福祉など行政運営で連携	山田信博学長	朝日(7.29)毎日(7.29)読売(7.29)日経(7.29)産経(7.29)東京(7.29)茨城(7.29)常陽(7.29)
11	本学ブランド化推進 ロゴ入りグッズや学園歌 イメージ戦略にOBの広告マンらが協力	山田信博学長 一倉宏(本学一期生、コピーライター)	茨城(7.31)
12	本学運動部ユニホーム、青を基調に統一へ	山田信博学長 体育専門学群 服部直子(体専4年) 筏井りさ(体専4年)	読売(8.1)産経(8.5)東京(9.4)朝日(9.7)
13	中学生対象の天体観測教室開催 宇宙への夢膨らませ、本学で体験教室	中井直正教授(数理物質科学研究科)	茨城(8.4)
14	医師確保を図る神栖市、地域医療研修の場を10月設置、養成へ 本学附属病院が指導医に	筑波大学附属病院	茨城(8.5)毎日(8.13)
15	本学の守友浩教授らがイオンで光学特性変化物質を発見 メモリー応用も可能	守友浩教授(数理物質科学研究科)	日経産業(8.17)
16	生誕150年で嘉納治五郎に再び光 国内外で催し多彩に	真田久教授(人間総合科学研究科) 谷本歩実(OG、コマツ)	北海道(8.17)
17	小中環境教育カリキュラムを本学研究者らが作成	次世代環境教育ワーキンググループ(WG) 山中勤准教授(生命環境科学研究科、WG幹事)	読売(8.18)
18	本学生グループが臓器移植に関心を持ってもらうためのDVDを制作	大河内信弘教授 (人間総合科学研究科、附属病院診療グループ消化器(外)グループ長、いばらき腎臓バンク事務局長) 学生グループ「賢謙楽学」 千原尉智路(医学群医学類4年) 甲斐智恵(芸術専門学群2年)	茨城(8.19)常陽(8.19)読売(8.20)毎日(8.27)東京(9.6)
19	日本生物学五輪に中高生挑戦 本学で2次試験始まる 全国から78人が参加		朝日(8.20)茨城(8.20)常陽(8.20)
20	第22回国際情報五輪で原将己さん(附属駒場高2年)が金メダル獲得	原将己(附属駒場高2年)	Web時事(8.21)朝日(8.22)毎日(8.22)読売(8.22)日経(8.22)産経(8.22)
21	全国盲学校野球大会、附属視覚特別支援学校が初優勝に笑顔 高見沢信彦選手が最優秀選手賞	附属視覚特別支援学校 村上真一監督 高見沢信彦(附属視覚特別支援学校)	Web毎日(8.21)
22	算数五輪決勝に777人 金メダル(中学3年生以下の部)に野村建斗さん(附属駒場中2年)	野村建斗(附属駒場中2年)	読売(8.23)
23	TX開業5周年でみどりの駅前に記念日建立 発展願い経過刻む 本学の西川潔副学長が記念碑とモニュメントをデザイン みどりの駅で式典、記念碑除幕式	西川潔副学長	常陽(8.24)茨城(8.25)読売(8.26)
24	▽多士彩々:上原健一(本学リエゾンセンター長) 起業精神「不毛の地」に芽産学仲介や資金・販促支援	上原健一(産学リエゾン共同研究センター長)	日経(9.3)
25	本学の三谷純准教授が開発、折り紙ソフトで新商品を県内6社が研究科	三谷純准教授(システム情報工学研究科)	茨城(9.8)
26	柔道世界選手権(9/9～9/13)、本学勢が大活躍	平岡拓晃(人間総合科学研究科、了徳寺学園職) 秋本啓之(人間総合科学研究科、了徳寺学園職) 小野卓志(08、了徳寺学園職) 福見友子(OG、了徳寺学園職) 森下純平(体育2年) 粟野靖浩(体育4年) 西山大希(体育2年) 緒方亜香里(体育2年) 杉本美香(OG、コマツ)	朝日(9.11～9.14)毎日(9.10～9.14)読売(9.10～9.14)日経(9.10～9.14)産経(9.10～9.14)東京(9.10～9.14)茨城(9.10～9.14)
27	本学研究グループが、運動が脳の成長促進を実証	人間総合科学研究科(運動生化学)研究グループ 征矢英昭教授(人間総合科学研究科)	茨城(9.11)日経(9.11)読売(9.11夕)
28	陸上日本学生対校選手権で本学(女子)が2連連続20回目の優勝	陸上競技部	朝日(9.13)毎日(9.13,9.14)読売(9.13)
29	本学の長崎幸夫教授や吉富徹研究員らが、心筋梗塞やがんの疾患の原因となるナノ粒子を開発	長崎幸夫教授(数理物質科学研究科) 吉富徹研究員	日刊工業(9.14)

## ● テレビ放送一覧

	内 容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	遺伝子組換え植物の安全性	渡邊和男教授 (生命環境科学研究科、遺伝子実験センター)	テレビ東京:たけしのニッポンのミカタ(9.3)

# イベントカレンダー (10月~12月)

## 10月

- 1日(金) 開学記念日
- 2日(土) 海洋自然教育マイスター養成講座  
:下田臨海実験センター(～3)
- 9日(土) 雙峰祭(～11)  
ビジネス科学研究科国際経営  
プロフェッショナル専攻オープンキャンパス
- 10日(日) 第13回ホームカミングデー
- 15日(金) 第6回ロールモデル懇談会
- 16日(土) 全学停電(～17)
- 20日(水) 学長主催留学生懇談会
- 21日(木) 合格発表「AC(I期)、オリンピック」
- 23日(土) 秋季スポーツ・デー(～24)

## 11月

- 2日(火) 第7回ニース・シーズ情報交換会
- 7日(日) ビジネス科学研究科法曹専攻  
入学試験(1次)
- 8日(月) 国際シンポジウム  
"Nonperturbative aspects of QCD  
at finite temperature and density"  
計算科学研究センター(～12)
- 10日(水) 学生向け特別講演会  
「『仕事と生活』と男女共同参画  
(堂本暁子元千葉県知事)」
- 13日(土) ビジネス科学研究科経営システム科学専攻、  
人間総合科学研究科生涯発達科学専攻  
入学試験(～14)
- 26日(金) 秋季休業(～30)
- 28日(日) エコシティー 第30回つくばマラソン
- 29日(月) 入学試験「推薦/帰国(芸)」(～30)

## 12月

- 1日(水) 第3学期授業開始
- 3日(金) 大学院学位記授与式
- 4日(土) 課外活動団体リーダー研修会(～5)
- 5日(日) ビジネス科学研究科法曹専攻入学試験(2次)
- 6日(月) 国際大学交流セミナー  
「環境保全と低炭素社会実現のための先端  
水圏生物学セミナーおよびワークショップ」  
およびAsOBiNet2010 in Tsukuba(～16)
- 7日(火) 合格者発表「推薦/帰国(芸)」
- 12日(日) 第4回つくば3Eフォーラム会議
- 13日(月) 第1回アジア・オセアニア藻類  
イノベーションサミット(～14)
- 18日(土) 「科学の芽」賞 表彰式・発表会
- 26日(日) 冬季休業(～1/5)





「研究基盤総合センター  
応用加速器部門」(加速器棟 1975年竣工)

研究基盤総合センターは、学際研究の発展および急速に変化する先端技術に機敏に対応し、総合的な研究支援を目的に、従来の加速器、低温、工作、分析、アイソトープの5センターを統合して2004年に設置されました。2006年にはアイソトープ部門が独立し、現在は応用加速器、低温、工作、分析の4部門で構成されています。加速器棟の高さは、地上41.6mです。



**Tsukuba**  
Communications

